

働くとは何かを考える

経済同友会，学校と企業・経営者の交流活動推進委員会委員

開倫塾 塾長

林 明夫

1. はじめに

- (1) 自己紹介
- (2) 私の中学時代（自他共栄）（ブルドック魂）
- (3) 私の高校時代（一所懸命）
- (4) 私の大学時代（独立自尊）
- (5) 社会に出てから（自己学習能力の育成）
- (6) いつも5年先を考えて準備しよう（生涯現役）

2. 働くことの心構え

- (1) 働くことは「収入」を得ること。
—— 独立自尊 ——
- (2) 「収入」を得るとは，世の中の「お役に立つ」こと。
- (3) 「お役に立つ」とは，お客様の「問題解決」になること。
- (4) ただし，「法令違反(ルール違反)」は許されない。（「公正さ(フェアであること)」が仕事の絶対条件。）
- (5) 会社は原則倒産。
- (6) 「時代に合った仕事」のみ生き残る。
- (7) そこで，働く人には常に「時代に合った仕事をする能力」をもつことが求められる。
- (8) 時代に合った「雇われる能力(エンプロイアビリティ)」を身に付けよう。
—— 「結果の出せる仕事能力」とは ——
 - (ア) 「トップマネジメント(経営幹部)」としてのエンプロイアビリティ
 - (イ) 「ミドルマネジメント(現場責任者)」としてのエンプロイアビリティ
 - (ウ) 「一般社員」としてのエンプロイアビリティ
- (9) 目を輝かせて「仕事」に打ち込もう。
—— 今やっている仕事の意味，使命(ミッション)を知ろう ——

- (10) 「生涯現役」を目指そう。
- (ア) 自律した生活 —— 自分のことは自分で
 - (イ) 自己責任の原則 —— 他人のせいにならない
 - (ウ) 心の健康管理, 身体の健康管理
 - 心も身体も病気にならないように「予防」を, 病気になったらすぐに直す「早期治療」を—
- (11) 「仕事」の仕方(世の中の「お役に立つ」やり方)はいろいろ。
- (ア) 会社員
 - (イ) 公務員(地方公務員, 国家公務員, 国際公務員)
 - (ウ) N P O (非営利組織), 社会起業
- (12) 「躰(しつけ)」を身に付けよう —— 企業が一番困っていること。
- (ア) 美しい立居振舞い(たちいふるまい)
 - (イ) 敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)
- (13) 「コミュニケーション」能力を —— プロフェッショナルとは、「説明」できる人。
- (14) 「IT」能力を —— 「知識社会 (Knowledge Society, ナリッジ・ソサイエティ)」に備えよう。
- (15) 「英語」能力を —— 経済の自由化は人の移動を伴い, 人の移動のさかんな国では英語によるコミュニケーションが仕事の上で不可欠。
- (16) 収入の範囲内での生活を。

3. 夢や希望をもち, 将来を考える上で大切なこととは

- (1) 「新聞」を毎日腰を落ち着けてじっくり読み, 世の中の動きを知ること。
- (2) 「読書」をし, 深く「考える力」を身に付けること。
 - 新聞や教科書を参考に, 「読書」に値する本を選ぶこと ——
- (3) 「アジア」のよさ, 「日本」のよさ, 「東京」のよさ, 「足立区」のよさ, 「自分」のよさに気付くこと。(「日本」, 特に「東京」は世界の人々のあこがれの地)
 - 解決し克服しなければならない問題にも気付くこと ——
- (4) 人生における選択の幅を広げるために「勉強」を。
- (5) 今中学校で習っている勉強は, 世の中に出てすべて役立つ。
- (6) 一生勉強, 一生青春。

以上